

(リスクアセスメント) 溝切清掃 作業手順書

会社名	中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋㈱	主な設備、仕様機械	主な使用工具、器具	安全設備、保護具	使用材料
作成日	令和7年5月29日	2tトラック、2tダンプ	角スコップ、竹箒、ケレン棒	ヘルメット、手袋、安全靴、安全チョッキ	
改訂日		4t強力吸引車	土嚢袋、ビニール袋	保護メガネ、マスク、しらすんだー受信機	
作成者	野尻			ブレーキ付き台車	
必要資格等		運転免許(準中型以上)		作業人員	5名
備考					その他

作業工程	No	単位作業とその主な手順	危険有害要因(予測される災害・事故) (品質、トラブルも含む)	危険要因			危険有害要因低減対策	誰が		対策後			参考図(写真等)
				可能性	重大性	評価		点検・確認	可能性	重大性	評価		
準備工		作業前ミーティング											
	1	新規入場者のチェックをする	現場、施工方法等について十分な知識を有していない	2	2	4	新規入場者教育の受講	職長	1	2	2		
	2	健康状態を確認する	風邪、飲酒等により正常判断が出来ない	2	1	2	体調の確認、アルコールチェックを行い記録する	職長	1	1	1		
	3	服装、保安用具の点検をする	しらすんだーの音が鳴らない	2	1	2	全員で点検を実施する	全員	1	1	1		
		機械・工具等の点検											
	4	朝礼、KYミーティングを行う	漠然と現場に入り事故を起こす	2	1	2	KYミーティングにて危険箇所を確認する	全員	1	1	1		
	5	作業手順の確認をする	各自の作業が分かっていなくて、現場で不安全行動を起こす	3	2	6	個人の作業内容、作業手順を確認する	全員	1	2	2		
	6	規制協議書の確認	協議書通りの規制でない	2	2	4	規制作業内容の確認	全員	1	2	2		
	7	車両点検、荷姿チェックをする	作業車の積荷、スベアタイヤの落下	2	2	4	車両点検、荷姿チェックを行う	全員	1	2	2		
移動		現場への移動											
	1	交通ルールを守り運転する	人身、物損事故	3	3	9	法定速度、十分な車間距離の確保	運転手、助手	1	2	2		
	2	高速道路に入る前にプレート区間の確認	プレート区間外使用、不正使用	2	1	2	通用区間、プレート、車番を確認する	運転手、助手	1	1	1		
	3	規制内に車両を駐車する	車両が動いて、他のものに接触する	3	2	6	ハンドル切、サイドブレーキ、輪止めを必ずする	全員	1	2	2		
	4	規制設置	台車が勝手に動いて一般車と接触する	2	1	2	ストッパー付台車等を使用して勝手に動かない処置を行う	全員	1	1	1		
本作業		溝切清掃											
	1	適切な保護具の着用。	保護具未装着によるけが。	1	2	2	適切な保護具の着用確認	全員	1	2	2		
	2	職長は、安全管理に心がける。	作業員の不安全行動。	1	1	1	職長は作業より、安全管理・仕上げ具合に留意する	職長	1	1	1		
	3	溝内の空き缶等を取り除く	空き缶などが通行車線側に転がる	2	1	2	都度、土嚢等で回収する	全員	1	1	1		
	4	ケレン棒などであらかじめ土砂をほぐしておく	土砂が締め固められ吸引ホースではきれいに回収できない	3	1	3	土砂をほぐして回収しやすくする	全員	1	1	1		
	5	土砂を吸引車で回収する	ホースが通行車線側にはみ出る	2	1	2	ホースがはみ出していないか監視をする	全員	1	1	1		
		現場離脱											
	6	荷姿をチェックする	作業車の荷台から物の落下	2	2	4	車両移動前、荷姿チェック時に確認しておく	全員	1	2	2		
		”	過積載になっている	2	1	2	積載量をチェックする	運転手	1	1	1		
	7	作業車両離脱	一般車両との接触	2	2	4	車両の離脱は必ず保安員の指示に従う	運転手	1	2	2		
	8	交通ルールを守り運転する	人身、物損事故	2	2	4	指差呼称を実施して安全確認する	運転手	1	2	2		
片付け		発生材の片付け											
	1	処理場にて発生材を処分	ダンプアップ時、流れてきた発生材にまきこまれる	2	2	4	車両との離隔をとる	全員	1	2	2		